

の福島宿の街並みが見える。木曾川対岸には山が迫り、その山を背に関守の山村代官屋敷跡の白塀が見える。屋敷の大半は小学校の敷地のようなだ・・！ 関所にあった歌碑の文字。

### 「山蒼く 暮れて夜霧に 灯をともす 木曾福島は 谷底の町」(太田水穂)

木戸銭を払って、関所見学後に関所を通り抜ける。石造の急な階段をつづら折りに下って木曾福島宿の町へ入る。ここの宿場も火災に見舞われたようで、大部分は焼失してしまった。京側の枡形周辺だけは無事だったようで、昔の街並みの雰囲気味わえる。

今朝、敷原宿の一里塚を出発し、木曾義仲の宮の越宿を過ぎて、木曾福島宿の京側の枡形まで歩いた。暮れて福島宿に宿泊する。江戸時代の旅籠から続く蔦屋という旅館です。追加料理に信州の馬刺しを注文しました。これが普通に良いのに、野菜の細工物の飾りが多い。久しぶりに信州名物の馬刺

しをいただいた。

木曾の銘酒「七笑」が旨い。

翌朝、女将さんから「中山道の旅、気をつけて、云々」の手書きの手紙を頂いた。宿の人たちに見送られて街道へ出た。宿泊した蔦屋の向かいに、木曾の銘酒「七笑」の蔵元がある。さっそく寄り道し、4合瓶をザックに入れ、担いだ。



中山道 木曾福島宿

### 「良い宿で どちらも山で 前は酒屋で」(山頭火)

## 詩吟同好会 報告



詩吟同好会は月1回、東京・四谷コモシにて練習をしています。会員は現在10名(三平・鈴木・伊藤・小野・佐々木・武藤・柳原・横山・海老原・相馬)です。昨年10月11日秋工創立120周年記念式典後の祝賀会にて秋田市キャスルホテルに於いて、合吟をご披露する事が出来ました。出吟者は三平氏・鈴木氏・伊藤氏・小野氏・武藤氏・相馬の6名でしたが、祝賀会に合い相応しい出来栄と評価を頂きました事は、大和豊山流宗家川村先生のご指導の下1年余りの練習の成果だったと思います。しかしながら、長らく秋工の詩吟同好会をご指導頂きました川村先生が5月14日お亡くなりになりました。大和豊山流二代目家元の吟が聞くことができなくなり大変残念です。会員一同深くご冥福をお祈りいたしました次第です。6月26日三平・小野・相馬・横山・海老原の5名で白井市木刈のご自宅へ伺い弔問して参りました。

昨年5月には元副会長・KANASA編集長も務められた加賀谷健治様が他界されました。葬儀には鈴木・伊藤・小野・三平・佐々木・赤川・相馬の7名で焼香して参りました。10月の母校の記念式典・祝賀会に参列し、合吟も楽しみにしておられましただけに残念でなりません。加賀谷様も同好会発足当時(平成14年)からのメンバーの一人として練習に励んでおられました。20年前の100周年記念式典・祝賀会での合吟の練習のため春の今井浜、夏は山中湖での合宿練習に励んだ事等が思い出されます。

現在は同じ大和豊山流で練習なさっておられました横山様(宗師)は舞踊もなさいます。令和7年1月11日の新春奉納舞踏会(阿佐ヶ谷明神社)にて、6月15日には浅草公会堂で行

われた垂爽会(あそうかい)での舞踏をご披露されました。何れも三平氏と相馬が拝見させて頂きました。

今後は8月30日予定のふるさと応援団チャリティーコンサートにての舞踊吟詠、11月予定の金砂健児の集いにての合吟を目途に練習を重ねてまいりたいと思っております。

令和7年4月からは、民謡同好会の三味線奏者の柳原様が詩吟同好会に入会なされまして練習を始めておられます。詩吟にご興味がございましたら是非ご入会をお勧め致します。

詩吟同好会 代表 相馬 洋悦 (昭和40年建築科卒)

携帯:090-5542 3408

E-mail: y-souma@p1.s-cat.ne.jp

株式会社 汎建築設計事務所

代表取締役 鈴木 誠一 (昭和38年建築科卒)

一級建築士  
コスト管理士

秋田市保戸野すわ町14-23  
TEL 018-862-3499  
FAX 018-862-3289  
E-mail: han-0416.co.jp  
<https://han-0416.co.jp/>